

令和6年度常葉大学自己点検・評価報告書(大学・大学院)

学校種	基準	点検・評価項目	評価の視点	第一段階評価（各学部・研究科の評価）			第二段階評価（自己点検・評価委員の評価）			第三段階評価（外部評価委員の評価）	現状と課題等
				評価	10学部	4研究科	評価	10学部	4研究科		
大学・大学院	教育・学習	・学位授与方針に明示した学生の学習成果の適切な把握及び評価	○学習成果の把握・評価する目的や指標、方法等について考えの明確性	a 全く問題なし	6学部	4研究科	適切である	7学部	2研究科	第一段階評価および第二段階評価との連携が図られており、学内における課題の抽出・改善等に向けた公正かつ適切な体制と取り組みが評価できる。一方で、点検・評価項目には、単年度での達成が困難な場合もあり、複数年度にわたる取組を要する場合も想定されるため、その対応についても考慮する必要がある。また、自己点検・評価の目的に掲げられている「優れた取組の発見」を念頭に置き、課題のみならず、常葉大学が実施している数多くの優れた活動に着目し、それをさらに発展させるための評価としていくことが推奨される。	常葉大学コンモノブリックやディプロマポリシーを活用し、各学科における卒業時の学習成果を明確に示すことで、各科目の評価基準へと適切に反映している。学部および研究科においては、シラバスに評価方法や到達目標を詳細に記載しており、学生や研究生が事前に学習目標と評価基準を十分に理解できるよう配慮している。また、根拠資料の不備により、第二段階評価において「適切でない」との評価を複数の学部・研究科で受けたことを踏まえ、これを次年度の改善課題とする。
				b 概ね問題なし	4学部	0研究科					
				c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	3学部	2研究科		
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科					
			○学習成果を把握・評価する指標や方法について、学位授与方針に定めた学習成果に照らした適切性	a 全く問題なし	4学部	4研究科	適切である	9学部	2研究科		
				b 概ね問題なし	6学部	0研究科					
				c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	1学部	2研究科		
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科					
			○指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用性	a 全く問題なし	2学部	3研究科	適切である	8学部	2研究科		
				b 概ね問題なし	7学部	1研究科					
				c やや問題あり	1学部	0研究科	適切でない	2学部	2研究科		
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科					
		○教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確性	a 全く問題なし	5学部	3研究科	適切である	7学部	2研究科			
			b 概ね問題なし	4学部	1研究科						
			c やや問題あり	1学部	0研究科	適切でない	3学部	2研究科			
			d 大いに問題あり	0学部	0研究科						
		○課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習・資格試験の取得・進路状況等の適切な情報に基づく活用	a 全く問題なし	6学部	4研究科	適切である	10学部	2研究科			
			b 概ね問題なし	4学部	0研究科						
			c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	0学部	2研究科			
			d 大いに問題あり	0学部	0研究科						
		○外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫	a 全く問題なし	1学部	2研究科	適切である	8学部	2研究科			
			b 概ね問題なし	9学部	2研究科						
			c やや問題あり	1学部	0研究科	適切でない	2学部	2研究科			
			d 大いに問題あり	0学部	0研究科						
	○自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上への取組	a 全く問題なし	0学部	2研究科	適切である	9学部	3研究科				
		b 概ね問題なし	10学部	2研究科							
		c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	1学部	1研究科				
		d 大いに問題あり	0学部	0研究科							
	学生の受け入れ	・適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づく適正な管理	○学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合の対策	a 全く問題なし	3学部	1研究科	適切である	8学部	3研究科		募集状況が厳しい研究科では、就職前や博士課程進学前に専門性の高い教育や研究指導を希望する学部生のみならず、生涯学習を目的とする社会人や高齢者など、多様なニーズに対応した募集活動に取り組んでいる。さらに、卒業生や外部からの入学希望者が情報収集手段としてホームページを重視しているとのアンケート結果を受け、研究科のウェブサイトの情報内容やデザインの大規模な刷新を進めている。
				b 概ね問題なし	7学部	3研究科					
				c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	2学部	1研究科		
				d 大いに問題あり	0学部	0研究科					
		○学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題の適切な把握	a 全く問題なし	9学部	4研究科	適切である	7学部	3研究科			
			b 概ね問題なし	1学部	0研究科						
			c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	3学部	1研究科			
			d 大いに問題あり	0学部	0研究科						
		○点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上への効果的な取組	a 全く問題なし	10学部	4研究科	適切である	8学部	3研究科			
			b 概ね問題なし	0学部	0研究科						
			c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	2学部	1研究科			
			d 大いに問題あり	0学部	0研究科						
	学生募集の強化と高大連携	・18歳人口減少に対応した学生確保対策の推進		a 全く問題なし	10学部	3研究科	適切である	8学部	3研究科		学部および研究科ともに、県内高等学校において教員向け説明会の時間を設け、本学の特色や取組内容について紹介している。また、高校生を対象とした授業や講演会に教員を派遣し、本学の教育活動を紹介することで進学意欲の喚起を図っている。一方で、他大学も同様の取組を行っていることから、本学独自の戦略的な広報活動が求められている。
				b 概ね問題なし	0学部	0研究科					
				c やや問題あり	0学部	0研究科	適切でない	2学部	1研究科		
				d 大いに問題あり	0学部	1研究科					
		・附属高校入試の実施を通して、高大接続教育の推進		a 全く問題なし	10学部	研究科なし	適切である	9学部	研究科なし		
				b 概ね問題なし	0学部						
				c やや問題あり	0学部		適切でない	1学部			
				d 大いに問題あり	0学部						

令和6年度常葉大学短期大学部自己点検・評価報告書(短大)

学校種	基準	点検・評価項目	評価の視点	第一段階評価（各科の評価）		第二段階評価（自己点検・評価委員の評価）		第三段階評価 (外部評価委員の 評価)	現状と課題等
				評価	3科	評価	3科		
短大	教育課程と学生支援	・学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組み		a 全く問題なし	3科	適切である	3科		すべての科で適切に実施している。学習成果アンケート、履修カルテ、常葉大学コモンルーブリック等を活用し、学習成果の評価をデータとして継続的に実施している。今後も、学生の学習成果の質的測定に基づく状況を、社会に対して分かりやすく公表していく方針である。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	0科		
				d 大いに問題あり	0科				
	学生の受け入れ	・適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づく適正な管理	○短期大学士課程全体及び各学科並びに各専攻科の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合の対策	a 全く問題なし	0科	適切である	2科	第一段階評価および第二段階評価との連携が図られており、学内における課題の抽出・改善等に向けた公正かつ適切な体制と取り組みが評価できる。一方で、点検・評価項目には、単年度での達成が困難な場合もあり、複数年度にわたる取組を要する場合も想定されるため、その対応についても考慮する必要がある。また、自己点検・評価の目的に掲げられている「優れた取組の発見」を念頭に置き、課題のみならず、常葉大学短期大学部が実施している数多くの優れた活動に着目し、それをさらに発展させるための評価としていくことが推奨される。	定員未充足の場合には、専任教員による高校訪問や出前授業を積極的に実施している。入試に関しては、令和6年度より総合能力入試（自己アピール型）を3月実施とし、年度末まで定員確保に向けた対策を講じている。また、入学定員に応じて授業編成（開講数の調整等）の見直しも図っている。
				b 概ね問題なし	2科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	1科		
				d 大いに問題あり	1科				
		・学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けての取組	○学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題の適切な把握	a 全く問題なし	1科	適切である	1科		入試種別ごとの志願者・入学状況に基づき、学科会議において定期的に点検・評価を行っている。附属校出身者については、IR提供資料に基づく退学率や入学後のGPAのデータ分析を通じて意見交換を実施している。一方で、検討内容がわかる根拠資料の不足や、点検結果からどのような事項が課題であったのかを明確にする必要がある。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	2科		
				d 大いに問題あり	2科				
		○点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上への効果的な取組		a 全く問題なし	1科	適切である	2科		近年の入学者の状況に基づき、指定校推薦の選抜基準の見直しや、オープンキャンパスにおける高大接続活動（模擬授業）において、教員の専門性に応じたより魅力的な内容提供への改善を進めている。一部の科では、学生募集停止に伴い、学生の受け入れに関する取組は控えている。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	1科		
				d 大いに問題あり	2科				
	学生募集の強化と高大連携の推進	・18歳人口減少に対応した学生確保対策の推進		a 全く問題なし	2科	適切である	3科		高大接続に対する高校側のニーズの多様化に対応するため、高校の進路担当教員を対象とした説明会や高校訪問を実施している。また、県内で在籍者が増加傾向にある通信制高校との関係構築にも取り組んでおり、幅広い視点から学生確保の対策を推進している。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	0科		
				d 大いに問題あり	1科				
		・附属高校入試の実施を通して、高大接続教育の推進		a 全く問題なし	3科	適切である	3科		すべての科で適切に実施している。附属高校入試においては、オープンキャンパスや学科独自の諸活動への参加を必須とし、生徒が提出したレポートにはルーブリック評価を用いてコメントをフィードバックするなど、工夫を凝らした高大接続教育を推進している。
				b 概ね問題なし	0科				
				c やや問題あり	0科	適切でない	0科		
				d 大いに問題あり	0科				

■令和6年度自己点検・評価委員名簿（学内）

「大学」

No.	氏 名	役職等
1	江藤 秀一	学長
2	安藤 雅之	副学長（静岡）
3	阿部 郁男	副学長（静岡）
4	伊東 明子	副学長（静岡）
5	磯貝 香	副学長（浜松）
6	小田 寛人	副学長（短大）
7	笛木 茂雄	教務部長
8	今村 貴幸	学生部長
9	佐藤 友紀	静岡理学療法学科長 （学長指名）
10	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
11	野中 萌	キャンパス事務局長 （草薙・瀬名）
12	林 啓子	法人本部事務局長

「短大」

No.	氏 名	役職等
1	江藤 秀一	学長
2	小田 寛人	副学長（短大）
3	宮本 淳子	日本語日本文学科長
4	遠藤 知里	保育科長
5	井上 幸子	音楽科長
6	大石 哲也	大学・短大本部事務局長
7	小楠 真理	学長室課長

■外部評価委員名簿（令和7年9月11日開催外部評価委員会）

No.	氏 名	所属等
1	松浦 高之	静岡市商工会議所 常務理事
2	岡山 卓史	静岡市役所 総合政策局長
3	白土 達夫	静岡県教育委員会 教育政策課長
4	町塚 祐輔	大伸木工株式会社 代表取締役社長